

# 市の支援を受けた市内完結型の取り組み

## 胎内市立中条小学校

新潟県胎内市大川町 1 6 - 5 6  
電話番号 0 2 5 4 - 4 3 - 2 0 4 2  
FAX 番号 0 2 5 4 - 4 3 - 2 6 7 0

全学級数	22学級
全児童数	630名
全教職員数	32名

### 活動地域と宿泊先

新潟県胎内市

【受入組織：胎内型ツーリズム推進協議会301人会】 → 詳細は110ページ

地 域 名	宿 泊 施 設
新潟県胎内市	農家民泊(26軒)(2泊)
新潟県胎内市	胎内アウレツ館

### 活動のねらい



- (1) 胎内市の自然や文化、社会条件を活用する体験活動を通して、「ふるさと胎内市のよさ」を再発見し、**地域を愛する心をはぐくむ。**
- (2) 自分たちが住む胎内市での農村宿泊体験や、地域の方との交流を通して、**主体的にコミュニケーションをとろうとする能力を培う。**(農家民泊の効果)
- (3) 集団生活の中で互いに協力したり、自分の役割に責任をもって取り組んだりして、**友達や自分のよさに気付き、互いに認め合う人間関係を築く。**

※胎内市の教育理念としての「人をつくる」「地域をつくる」が根底にある。

### 取り組み前の課題

- (1) 初めての長期宿泊体験であり、**児童・保護者とも不安があった。**
- (2) **2泊する農家民泊先の確保、長期宿泊体験の活動メニューを決めることに難しさを感じていた。**
- (3) 長期宿泊体験を行う際、**教育課程の編成をどのように進めるか、実施学年への支援体制をどのように組むか、難しさがあった。**

対象学年・児童数	5年生・122名
実施時期	平成21年9月7日（月）～11日（金）



### 活動地域の選定で決め手となったポイント

- (1) 胎内グリーンツーリズムやアウレツ館、胎内市教育委員会、同農林水産課と、胎内市を挙げての受け入れ態勢が整備され、体験活動の紹介や農泊先の斡旋等のシステムがしっかり整備されている。
- (2) 本校のある市内は、自然や歴史、文化的な学習材が豊富にあり、講師等の支援体制も充実している。
- (3) 活動場所が本校から近く、時間的距離も適切である。
- (4) 消防署や警察署、病院などの医療機関も市内にあり、安全面や医療面の対策が容易にとれる。

### 活動の成果

- (1) 活動後の児童アンケートの結果は次のとおりであった。
  - ① 胎内市について興味・関心が高まった（94％）
  - ② 課題を持って取り組めた（88％）
  - ③ 分からないことは進んで質問した（92％）
  - ④ 友達と協力して活動することができた（98％）
  - ⑤ 体験したことを相手に分かりやすく発表することができた（81％）

活動前よりも割合が上昇した。地域の人々とかかわり、人や自然と地域がもつ魅力にたくさんふれることができたことで、子どもの充実感・満足感につながった。
- (2) 初めて出会った農家の方々と、農作業や夕食の支度、団らんを2泊に渡って体験したことで、積極的なかかわりが生まれ、コミュニケーション能力の高まりが見られた。
- (3) 農作業や課題別学習を通して、食べ物大切さを再認識した。
- (4) 長期宿泊体験の間、友達と生活を共にすることで、わがままをせずに協力すること、相手を思いやることなど、体験を通して社会性が身に付いてきた。

### 課題に対する解決策

- (1) 受入窓口との情報交換を密にし、保護者への説明会を3回実施したり、子どもたちへの情報提供をこまめに行った。
- (2) 受入窓口や市教育委員会、前年度の実施学年との打ち合わせや情報交換を実施し、児童の成長のために活動を構成できるよう工夫を重ねた。
- (3) 4泊5日ふるさと体験学習特設委員会を校内に位置付け、校長の指導を受けながら、実施学年以外に教育課程の編成や予算編成、実施学年への人的な支援体制の確立等、全校体制でサポートする体制をつくった。

## 体験活動の実施体制 . . . . .

### 学校の指導（支援）体制

#### (1) 学校の推進体制

- ・初めての長期宿泊体験であるため、保護者や児童の不安解消、実施学年への負担軽減のため、4泊5日ふるさと体験学習特設委員会（校長、教頭、主幹教諭、教務主任、5年担任、養護教諭、事務主査）を設置し、計画から実践、予算編成や執行まで全校体制で支援した。
- ・計画作成、実践に当たり、胎内市教育委員会、市農林水産課、胎内アウレツ館との連携を図り、円滑に体験活動ができるような体制づくりを行った。

#### (2) 保護者への説明等

- ・保護者対象に4泊5日宿泊体験活動の趣旨や概要説明、実施する体験活動や経費、直前説明会と、3回に分けて説明会を実施した。

#### (3) 活動ボランティアの募集

- ・保護者を対象に、野外炊さんの際の活動ボランティアを募集した。

## 配慮事項等（安全確保のための改善点、衛生上の留意点等） . . . . .

### 安全確保

- (1) 学校と受入窓口である胎内アウレツ館とで、児童の安全確保についての打ち合わせを、事前、活動中と頻繁に行った。
- (2) 学校と同一市内で体験活動が行えるという利点を活かし、農家民泊先には1回、他の体験施設は複数回の下見を行った。その際、農家民泊先に配慮を要する児童の状況について事前に知らせ、対応の共通理解を図った。
- (3) 事故発生等、緊急対応時における連絡体制を整えた。

### 衛生上の留意点

- (1) 食物アレルギーや既往症、健康上の留意事項について事前調査を行った。
- (2) 毎朝、検温等の健康観察を行い、病気の予防に努めた。
- (3) 実習前後、食事や調理の前に、手洗いを徹底した。

# 感 想 . . . . .

## 保護者からの声

- (1) 農家民泊体験はとても貴重な体験となり、本当によかったと思いました。その他の体験も一つ一つが胎内市を知り、好きになれる学習だなと感じました。
- (2) 心配しながら送り出した「つばさっ子体験隊」（長期宿泊体験活動の校内名称）でしたが、ひとまわり大きくなり、すてきな笑顔で帰ってきたのでよかったです。
- (3) 体験後、家でご飯を炊いたり、豚汁をつくったりと、お手伝いをするようになりました。
- (4) よそのお宅にお世話になるということで、あいさつや返事などが心配でしたが、うまくできたようでほっとしました。
- (5) 子どもが5日間も家にいなかったことは、親も初めての経験でした。離れている間、とてもさびしく、子どもへの愛おしさを改めて実感しました。



## 児童からの声

- (1) 初めての経験できんちょうしたけど、農作業の大変さが分かったし、農家の方にやさしく教えていただいて、うれしかったです。
- (2) 初めて会う人にも、あいさつをすることができるようになりました。
- (3) 食事の時の礼儀作法に気を付けるようになりました。
- (4) 分からないことを聞いて、解決できました。皆さんがやさしく教えてくださいました。
- (5) 友達と協力することは大切だと思いました。自分勝手なことは迷惑がかかるということを感じました。
- (6) 胎内市には、すばらしい自然や施設があり、あたたかい心の人が大勢いることが分かりました。



農泊先での手伝い



農泊先での食事の手伝い

## 実施までの経過 . . . . .

- 平成21年 1月 校内職員会議で、「農山漁村におけるふるさと生活体験推進校」に継続希望することを決定し、回答した。
- 4月17日 「農山漁村におけるふるさと生活体験推進校」への決定通知を受理した。
- 4月20日 胎内市教育委員会主催「ふるさと体験学習（宿泊体験活動）」説明会で、4泊5日宿泊体験活動の概要説明を受けた。
- 4月22日 校内特設委員会を開催し、説明会の概要を聞き、市教育委員会や胎内アウレツ館と調整を図りながら、計画を立案することを決定した。
- 4月28日 学習参観日を活用して、第1回保護者説明会を開催し、4泊5日宿泊体験活動の趣旨や指定までの経緯、活動の概要を説明した。
- 6月 胎内アウレツ館と打ち合わせながら、日程や実施する体験活動の計画、予算案を立案した。
- 7月 3日 第2回保護者説明会を開催し、昨年度の体験活動の写真やプレゼンテーションを使い、活動の概要や経費の概算説明を行った。
- 7月 6日 校内特設委員会を開催し、4泊5日宿泊体験活動に係る予算の決定を行った。
- 8月 夏季休業を活用し、現地調査、体験活動場所、宿泊施設の確認を、関係機関と行った。
- 8月28日 第3回保護者説明会を開催し、農家民泊先や日程、持ち物、活動についての詳細説明や質疑応答を実施した。

## 活動内容 . . . . .

### 事前指導

#### (1) オリエンテーションと学年テーマの設定

昨年度の活動の映像や資料を見ながら、今年度の活動への見通しをもたせた。その後、活動への学年テーマを話し合い、決定した。

#### (2) 計画の概要説明や各自の課題の設定、役割分担

活動の計画を説明した後、各自が活動の課題を設定し、課題ごとのグループで活動目標の設定や役割分担を行った。

#### (3) 体験活動のルール確認や農家民泊先への手紙の作成

農家民泊先での体験、課題別の体験活動等で気を付けることを確認したり、農家民泊先でお世話になる班全員の紹介、学校紹介、楽しみにしていることなどを手紙に綴り、意欲付けを図った。

#### (4) 諸活動のリハーサルや事前アンケートの実施

事前に、あいさつを含めた農家民泊先の家族との接し方、活動の進め方などのリハーサルを行った。また、郷土の自然や文化、人とのかかわり、自他の変容を見るため、事前アンケートを実施した。

日 程

月日	行 程
1 日 目 (9 月 7 日)	<p>9:30 学校 発</p> <p>9:00 胎内アウレッツ館 着 ・オリエンテーション</p> <p>10:30 米粉工場見学(共通体験Ⅰ)</p> <p>12:00 昼食</p> <p>13:00 農家民泊体験の説明</p> <p>14:30 農家民泊先に順次到着 ・農村生活体験</p> <p>18:30 夕食 ・農家民泊先の家族との団欒</p> <p>22:00 就寝</p>
2 日 目 (9 月 8 日)	<p>6:00 起床 ・朝食準備や手伝い</p> <p>7:00 朝食</p> <p>8:30 農家民泊先から順次出発</p> <p>9:30 胎内アウレッツ館 着</p> <p>10:00 米粉ピザ作り体験</p> <p>12:00 昼食</p> <p>13:30 ぶどう収穫体験(共通体験Ⅱ)</p> <p>15:30 シンクルトン記念公園にて 油田見学体験(共通体験Ⅲ)</p> <p>16:00 農家民泊先に順次到着 ・農村生活体験</p> <p>18:30 夕食 ・農家民泊先の家族との団欒</p> <p>22:00 就寝</p>



農家民泊先との出会い



農家民泊先との出会い



米粉ピザ作り



ヤギの乳を使った  
アイスクリーム作り



米粉工場「新潟製粉」見学

3  
日  
目  
(9  
月  
9  
日)

- 6:00 起床  
・朝食準備や手伝い  
8:30 農家民泊先から順次出発  
9:30 胎内アウレッツ館 着  
・宿泊部屋確認、荷物整理  
10:30 共通体験 I II IIIのまとめ  
12:00 昼食  
13:30 テーマ別学習へ出発  
14:00 テーマ別学習①  
・産業（畜産飼育）、  
自然（昆虫、自然観察）、  
食文化（摘み草、笹団子材料づくり）コース



ブナの水音を聴く

- 16:30 胎内アウレッツ館 着  
17:00 テーマ別学習の資料整理  
18:00 夕食  
19:00 星空観察会  
20:30 入浴  
22:00 就寝



笹団子づくり

4  
日  
目  
(9  
月  
10  
日)

- 6:30 起床  
7:00 朝の集い  
7:30 朝食  
8:00 班長会議  
9:00 テーマ別学習②へ出発  
9:30 テーマ別学習②  
・産業（ヤギの搾乳、アイスクリーム作り）、  
自然（散策、ネイチャーゲーム）、  
食文化（笹団子づくり）



ヤギの乳搾り

- 12:00 昼食  
13:30 テーマ別学習①②のまとめ  
16:00 キャンドルファイヤー準備  
17:30 夕食  
18:10 班長会議、班会議  
19:00 キャンドルファイヤー  
20:40 入浴  
22:00 就寝



学習のまとめ

5 日 目 ( 9 月 11 日 )	6:30 起床 7:00 朝の集い 8:30 清掃、荷物整理 9:20 野外炊さんの準備 10:00 野外炊さん 12:00 昼食 14:20 別れの集い 14:30 胎内アウレツ館出発 15:00 学校 着	 <p>収穫祭・学習発表会</p>
--	--	---

## 事後指導

### (1) 活動の振り返りとまとめの実施

各自が体験した活動について振り返り、人や自然のすばらしさ、人と触れ合うことの心地よさ、郷土のよさについて学んだこと、体験から得たことをまとめた。また、3つのコースに分かれた課題別学習を、総合的な時間の中間のまとめとした。

### (2) 礼状と収穫祭へ向けた招待状づくり

お世話になった農家民泊先の方との交流を通して、人の温もりやすばらしさを感じた。その思いをお礼状に表現した。同時に、学校借地田で育てた米を使った収穫祭(カレーライスの会食、4泊5日の体験活動発表会)を計画し、感謝の気持ちをもって農家民泊先の方々を招くための招待状も作成した。

### (3) 収穫祭での活動発表

総合的な学習の時間「ふるさと胎内市のよさを知ろう」の中間発表会の形式をとり、4泊5日の体験活動で学んだことを、招待した農家民泊先の方々や保護者を対象に活動発表を行った。

### (4) 事後アンケートの実施

事前アンケートと同様の項目で、変容を見るため、児童を対象にアンケートを実施した。また、保護者の視点からも活動を評価してもらえるように、保護者アンケートも実施した。

# 「青少年自然の家」と受入モデル地域との連携による取り組み

## みなみ うお ぬま い か ざわ 南魚沼市立五十沢小学校

新潟県南魚沼市原331番地1  
電話番号 025-774-2059  
FAX番号 025-774-2082

全学級数	6学級
全児童数	79名
全教職員数	11名

### 活動地域と宿泊先

新潟県妙高市

【受入組織：妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会】 → 詳細は114ページ

地域名	宿泊施設
新潟県妙高市	民宿(7軒)(2泊)
新潟県妙高市	国立妙高青少年自然の家

### 活動のねらい



- (1) 仲間や周囲の支えを受け、自分の思いや願いの実現に取り組む。(生活の自立)
  - (2) 自然を生かし豊かに暮らす杉野沢の人々の知恵からの学びを通して、ふるさと五十沢と自分のかかわりを改めて見つめ直すきっかけとする。(暮らしから学ぶ)
- ※本校の児童は三世代家族で生活していることが多く、たくましさに欠けるため、自立が重要であるとした。

### 取り組み前の課題

- (1) 事前・事後指導の一層の充実を図ること。
- (2) 長期宿泊体験活動を受け入れる自然の家や民宿などと学校との連携を密にすること。



高原トマトの収穫



農業体験

対象学年・児童数	5年生・19名
実施時期	平成21年10月19日（月）～10月23日（金）

### 活動地域の選定で決め手となったポイント



- (1) 国立の宿泊体験施設があり、民泊とあわせて長期宿泊が可能であること。
- (2) スキー民宿がたくさんあり、宿泊施設が整っていること。
- (3) 妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会をはじめとして、妙高市が非常に協力的であること。

### 活動の成果

- (1) IKR 評定用紙による「生きる力」のアンケートより
  - 事前・事後に実施した結果、積極性、自己肯定感に数値の向上が見られた。
- (2) ふるさと五十沢を改めて見つめ直すことができた。
  - 郷土芸能「春駒」を守り受け継ぐことに誇りをもっている杉野沢の子どもたちと接し、改めて、五十沢の誇れるものは何だろうと考える活動を行うことができた。

### 課題に対する解決策

- (1) 事前指導では、教師が目指す子どもの姿が、子ども自身のなりたい姿として意識されていくように仕向ける。事後指導では、具体的な体験を事例として成長している自分、成長したいと感じている自分を意識させる。
- (2) 目の前の子どもたちの成長を願い、ねらいに沿ったプログラムをデザインすることができるよう、打合せ会の回数と密度を増やすこと。



高原トマトの収穫



キャンプファイヤー

## 体験活動の実施体制 . . . . .

### 学校の指導（支援）体制

- (1) 初めての長期宿泊体験であり、保護者から十分な理解を得るため、4月と9月に保護者説明会を実施した。9月の説明会では、学校側だけではなく、**国立妙高青少年自然の家**の職員や**妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会**の方からの説明も行った。
- (2) 学校、国立妙高青少年自然の家、妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会3者での事前打合せ会を実施した。
- (3) 5日間の引率の交代は行わなかった。
- (4) 上越教育大学教職大学院学校支援プロジェクトの学生の協力を得、子どもたちの活動に寄り添い、支援にあたりとともに、記録・写真をとってもらった。



郷土芸能「春駒」交流会



妙高アドベンチャー



民宿での食事作り

## 配慮事項等（安全確保のための改善点、衛生上の留意点等） . . . . .

### 安全確保

- (1) 学校、国立妙高青少年自然の家、妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会3者での事前打合せ会の際に、安全面についても十分協議した。
- (2) 事前下見を行った。
- (3) 緊急対応時の連絡系統や医療機関などを事前に十分確認した。

### 衛生上の留意点

- (1) 事前に保健調査を行い、必要な事項を各民宿にも連絡した。
- (2) 民宿での調理等では、十分な手洗いや衛生管理を行うよう、児童に事前指導するとともに、各民宿にも要請した。

## 感想 . . . . .

### 保護者からの声

- (1) 今までの手伝いは約束でやっていたことでした。4泊5日の宿泊体験活動をおこなってからは、自分から「やることある？」と進んで手伝いをするようになりました。
- (2) 田舎に住んでいても農家ではないので畑や田んぼの体験はできません。家の手伝いもついつい親が手出ししてしまいがちですが、民宿の方から教えてもらって自分でやってみるという体験ができました。とても貴重な5日間でした。



### 児童からの声

- (1) 妙高でいろいろな体験をしてとても楽しかったです。もう一度妙高に行きたいです。いろいろな山や滝、とても感動しました。あと5日いや10日妙高にいたい気分です。
- (2) 私が妙高で学んだことは、人とささえあうということです。これからも活動した中で学んだことを生かしていきたいと思います。



農家の手伝い



妙高アドベンチャー

## 実施までの経過 . . . . .

- 平成21年 2月 「豊かな体験活動推進事業」への応募を決定
- 4月25日 第1回保護者説明会を実施し、概要を説明、承諾を得る。
- 8月 学校、妙高青少年自然の家、妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会での事前打合せ会を実施  
現地見を実施
- 9月 4日 第2回保護者説明会を実施

# 活動内容 . . . . .

## 事前指導

- (1) 活動の概要説明及び班での役割分担や目標の設定
  - ・目標に即した振り返りの観点を明確にしたカードの作成
  - ・自立を促す環境としてのグループ編制  
(あえて普段仲が良いわけではない児童同士を2名ずつ組み合わせて民宿に宿泊させた。)
- (2) 宿泊先へのお願いの手紙作成
  - ・児童の手紙と顔写真を事前に届ける。
- (3) 養護教諭による保健指導



農家の手伝い

## 日程

月日	行	程
1 日 目 (10 月 19 日)	8:15	出発式
	11:00	開校式
	12:00	昼食・休憩
	14:00	妙高アドベンチャー (子ども達が協力しなければ 達成できない活動)
	17:30	夕食
	19:00	星座観察
	20:00	入浴
	21:00	振り返り
	22:00	就寝
2 日 目 (10 月 20 日)	6:00	起床
	7:00	朝食
	8:30	杉野沢に移動
	9:10	農業体験
	11:30	民宿の方々との対面式
	12:00	昼食・休憩
	14:00	農家民宿ホームステイ 民宿手伝い・苗名滝見学 昔の農具、スキー用具見学など
	17:00	夕食作り・夕食
	19:00	民話
	20:30	入浴
	21:00	振り返り
	22:00	就寝



妙高アドベンチャー／  
皆一斉に立ち上がれ!



農家の手伝い

<p>3 日 目 (10 月 21 日)</p>	<p>6:00 起床 7:00 朝食 8:30 農家民宿ホームステイ 民宿手伝い・苗名滝見学 昔の農具、スキー用具見学など 12:00 昼食 13:00 民宿手伝い・苗名滝見学 昔の農具、スキー用具見学など 17:00 夕食作り・夕食 18:30 郷土芸能「春駒」交流会 20:30 入浴 21:00 振り返り 22:00 就寝</p>	 <p>郷土芸能「春駒」交流会</p>
<p>4 日 目 (10 月 22 日)</p>	<p>6:00 起床 7:00 朝食 9:00 民宿の方々とお別れ式 9:30 移動 10:00 宿舎整理・活動の振り返り 12:00 昼食・休憩 13:00 オリエンテーリング 15:00 活動の振り返り 17:30 夕食 18:30 キャンプファイヤー 20:00 入浴 21:00 振り返り 22:00 就寝</p>	 <p>キャンプファイヤー</p>
<p>5 日 目 (10 月 23 日)</p>	<p>6:00 起床 7:00 朝食 8:30 記念品作り (妙高のシラカバを使って、 20才になった自分に宛てた手紙) 12:00 昼食・休憩 13:00 閉校式 13:30 自然の家出発</p>	 <p>記念品作り</p>

### 事後指導

- (1) お世話になった方々へのお礼の手紙を書く。
- (2) 宿泊体験報告会を実施
- (3) 妙高体験記録集を作成

記念品作り